

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（16・下）

—— 高大成さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯 † / 高 正子 †† / 伊地知紀子 †††
鄭 雅英 †††† / 皇甫佳英 ††††† / 高村竜平 ††††††
村上尚子 ††††††† / 福本 拓 †††††††† / 高 誠晩 †††††††††

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (16) — Part II —
— An Interview with Ko Daesung —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

為美里での4・3（続）

《釜山へ》

† 大阪産業大学 人間環境学部 教授
†† 神戸大学 国際文化学部 非常勤講師
††† 大阪市立大学大学院 文学研究科 教授
†††† 立命館大学 経営学部 教授
††††† 在日済州島出身者の生活史を記録する会
†††††† 秋田大学 教育文化学部 准教授
††††††† 津田塾大学 国際関係研究所 研究員
†††††††† 宮崎産業経営大学 法学部 准教授
††††††††† 立命館大学 生存学研究センター 専門研究員
草 稿 提 出 日 6月30日
最 終 原 稿 提 出 日 6月30日

——それはいつごろです？

高：僕 19 歳ですわ。[祖父が] 病気で亡くなってね。60 歳で亡くなってね。亡くなってから 3 年、小祥大祥*13 済んでから、[釜山に行きます]とお祖母ちゃんに言ったら、泣きながら「お前帰ってしまったら、私はどうするんや」言っ^ゆてね。ものすごく泣きながら。僕も親がおるのにな、お父さんが。その時分、お父さんが長男やし本家やし、ほったらかして行ってるから腹立ってね。だんだん歳取ったからね、僕もね。「親の住んでいるところへ一遍行ってみるわ」言っ^ゆて。行ってみたら、よその家、小っちゃい部屋借りて。僕も一緒に住んだけどね、住みましたけどね。

——学校は小学校 6 年生までは終えられて、そのあとはもう家の仕事を？ 農業を？

高：え、農業をして。

——作ってたものは、解放までと一緒のもの？

高：ええ、一緒ですわ。麦とアワとイモね、それしかないからね。ま、今はミカンが、日本のまねして、今は若い人はナニしてますけどね。

——農業をしたりした時、山から避難してくる人たちが村に来たりはしなかったですか？

高：あ、ちょっとあったけどね、だんだんなくなってしまっ^ゆてね。え、村も襲撃もされてないしね。交番行って、「親とこ行きますわ」言っ^ゆたら、行かしてくれましたよ。

——見逃して？

高：ええ、見逃してくれたのかな。おじさん、軍隊から帰りしな[除隊間際に]、休暇が下りて、何日間 [か] 休暇が下りるからね。そのおじさんと。[おじさんは]「お前行きたくなったら、釜山^{フサン}で悪いことしたら絶対生まれへんで」[と]言っ^ゆて、「もっと厳しいで」[と]言っ^ゆて、「済州島^{チュジュド}みたいに自由にできへんで」[と]言っ^ゆたけど、[自分は]「親がおるのに、なんぼ長男でも、本家でも親と一緒に飯食べてみたい」と言っ^ゆて、それで連れて行ってくれましたよ。

済州島^{チュジュド}は船がなかったら何もできないからね、いまだに。僕おった時分、その事件あったからね、何もなかったですわ。釜山^{フサン}、陸地^けから何か来えへんかったらね [来なかったらね]。米もないし、何もなかったですわ。最初食べたことない。

——軍隊に行きはったのは何歳の時ですか？

高：僕ですか？ いや、僕は行ってないです。僕は行かないです。

——あの一、釜山^{フサン}に行かれる時、お母さんはどうされたのですか？ ずっと済州^{チェジュ}に？

高：ええ、済州^{チェジュ}におりました。

鄭：亡くなってはなかった？

高：その時分、亡くなってない。あと、結婚する前、僕が来て間なしに〔間もなく〕亡くなったらしい。

鄭：ほんな、お母さんもお父さんも続けて亡くなったね。

——それまで海で仕事を？ お母さんは海で？

高：あ、そうそう、もうあれしかないからね、その時分としては。

——釜山^{フサン}ではどれくらいおられたんですか？

高：ちょうど4年半くらい。15歳なる前に釜山^{フサン}に出てきたからね。

——15歳になる前に釜山^{フサン}に来た？

高：ま、15歳になったね。

——じゃ、お祖父さんが亡くなったのはその前？

鄭：はい、その前です。

高：僕が長男やし。おばさんたちが、おじさんたちが、「お前はお父さんの代わりに先頭に立って。何もせんでもいいから、あなたがなん〔長男〕やから」言^ゆって、「小祥大祥^{ソサンテサン}は済んでから行け」言^ゆうて。

——お祖父さんが亡くなって、小祥^{ソサン}して大祥^{テサン}を済ませてから……？

高：「親〔の〕ところに行け」言^ゆって。

——そのとき、お父さん、釜山^{フサン}から帰って来られたのですか？

高：生活が苦しいから言^ゆって。その時分はね、ほんまに朝鮮戦争が起きたし、なんやかんやしてなかなか来られへんです。ま、これ言^ゆっても、今みたいにちょっとナニしたら、急にばーと行く時代と違うし。

——釜山^{プサン}に行かれた時は、もう朝鮮戦争は一段落？

高：その時分は一段落ね。釜山^{プサン}来る1年前はね。避難民がものすごい済州島^{チェジュド}に来てましたよ。

——為美里^{ウイミリ}にも？

高：え、来て住んでましたよ。村の人が食事して持って行って、食べさせているのを小っちゃい時分、見ましたよ。

——何人くらい来てましたか？

高：数はちょっと分かりません。学校ひとつの、広いからね、1クラスは……。大方1年以上住んだん違うかな。

——学校に住んでたんですか？

高：ええ、学校、学校の教室。1クラス占領されてね、学校でね。

——村の人たちがご飯を？

高：ええ、毎日朝、晩、昼ね。それ覚えています。

——その人たちは昼間何をしていましたか？

高：ま、遊んでましたよ。あと、自分 [が] 食べるものを、こっちやったら山ネギ、小っちゃいネギありますわ。それを畑行ってね、採ってね。われわれはそのまま草だと思っとたけどね。陸地は違いますわ。根っこまで取ってきてね、食べてました。これ覚えたな思て、やってみたら、自分も食べてみたら、ほんまにネギですね。

——あれは韓国の言葉で何と言います？

高：あれはね、うんー、ちょっと、こち [こっちに] もありますけど。小っちゃい細いネギみたいな……チョパ？ 違う、セウリじゃないし。忘れました。あれは体にはいいですよ。僕も一緒にあれ取ってきてね、切ってね、お粥してね。ご飯したら少ないし、お粥したら、いとこたちと一緒に座って、ご飯を大きい井いっぱい食べたのを覚えています。

——避難民の人たちが来た時は、もう石垣の中に住んでいない時ですか？

高：石垣まだありましたよ。

——その時も見張りの人はちゃんと立って、その時期にも6時までは？

高：警察がずっと見張りしてるから。山から〔遊撃隊の活動が〕まだあったからね。そのあと釜山〔に〕出てきて。僕の伯母ちゃん、海女さん、陸地から来てね、家〔に〕寄ったら「そんな〔軍に召集されるようなことは〕今はない」言^ゆって。

——お母さんは陸地には来てなかったのですか？

高：お母さんは来てなかったけど、僕のお父さんの妹さん〔姉の間違いか？〕ね、来たからね。

——ああ、伯母さんですね。

高：ええ、伯母さんね。来て、「今は、今年から〔召集は〕ない」言^ゆって、「え？ そんな、ないですか」言^ゆうて。

——朝鮮戦争が終わったあたりですか？

高：そうですね。そうやから、あとで済州島うるさい時分でも、軍隊連れて行きましたよ。令状が下りて行った人、大勢おったからね。村に集まって、みんなお祝いして、行く人を。そのあと1年2年くらいかな、終戦になった、言^ゆってね。

——終戦になったというふうに聞いたんですか？

高：ええ、終戦、あの38度線、戦争がね。

《父の生活》

——釜山ではお父さんは何をしてはったんですか？

高：あ、船乗ってましたよ。

——自分が持っている船ですか？

高：いや、違います。その時分はもうなかったですわ。借金だらけとか。

——戦争には行かなくてよかったんですか？

高：その時分、お父さんはその時分、歳が歳かな。知らんけど、なかったですわ。

——親戚の中で軍隊に行かれたのは？

高：僕の叔父さんですわ。

——叔父さんというのはお父さんの……？

高：そうそう、弟。僕と一回り違うかな。

——じゃ、お父さんも船に乗って……。どこに行く船に乗って？

高：あちこち、物資積んでね。江原道^{カンウオンド}、蔚山^{ウルサン}その辺なんか行ってきたし。機関長で行ったからね。ま、給料も少なかったけどね。僕も釜山^{プサン}出て、20歳に稼いで。20歳になる前ですわ、お父さんが借りた部屋、社長さんやったからお願いします、^ゆ言って。女のピンする工場ですって仕事しましたよ、こっち、日本に来るまでに。

——その工場はどこにありましたか？

高：釜山^{プサン}の影島^{かげしま}、影島^{ヨンド}。

——あ、^{チェジュド}濟州島の方が多かったみたいですけどね？

高：影島^{かげしま}はわれわれ^{チェジュド}濟州島の出身が多いですわ。日本からも。生野あたりで大きい工場[^{プサン}持っていた人が]、これつくるのやってて。終戦なったからね、そこ、釜山^{プサン}に安い土地あったからね [購入した]。500坪くらいあるな、広いとこありましたよ。

——もともと日本で住んだ人が？

高：ええ、そうそう、そんなばかりですわ。^{プサン}釜山で、大きい工場した人でしたよ。

——それは釜山^{プサン}の方か……？

高：それは社長さんですわ、^{チェジュド}濟州島ですわ。その人、^{ハンリムミョン}翰林面^{ハンリムミョンサラム}やったかな、翰林面^{ハンリムミョン}の人やったかな。

——お住まいはどこでしたか、住んでおられたところは？

高：釜山^{プサン}の影島^{ヨンド}で。

——じゃ、そのあたりにチェジュの済州の方がたくさん？

高：あ、そうですね。海女さんも。

——伯母コモニムさんはどこで、行ったり来たりしてましたか？

高：伯母コモニムさんは行ったり来たり。チェジュ済州から、2月になったら。それが海女さんやから、陸地の田舎で呼びますわ。何月になったらおいでやゆ言ゆって、その時分ハガキで呼んでね。ウルサン ウォルネ蔚山、月内〔全羅南道麗水市月内洞〕かな。1回ほど、伯母コモニムさんそこで住んだから。3か月くらいかな。海女さんでいろんな、トコロテンつくるやつ、チョンチョ天草、言うて。

——高さんがフサン釜山に行く前から行ったり来たりしてましたか？

高：そうです。その時分、区長のハンコ、また警察のハンコを押さなかったら絶対船乗れへん。

——それをもらって陸地に海女さんたちを……。

高：ええ、連れて行っていました。

——それは朝鮮戦争始ってから？

高：ええ、そうです。

——その前も行っていましたか？

高：ええ、前も行ったらしいですわ。ま、チェジュド済州島は女の人、それしかないからね。

身寄りのない日本へ

《父の勧め》

——日本に来ようと思ったきっかけとか、何か考えておられましたか？

高：いや、それは何も関係ないですけどね。お父さんが、「同じ苦勞するんやったら、言葉はアレやけど、お父さんも住んだことあるから日本に行き」〔と〕言ゆって、そんな話も聞いたし。さっき言ゆったけど、「なんやかんや言ゆっても、日本は戦争には負けたけど、発展してるから。アジアでは日本やし、西洋ではイギリスやから」。それは先生が言ゆってくれたし、またうちの親父もそんな言ゆってくれたから。「私は今から歳取っていくから、

そこ行ったら誰か使ってくれるから、もうじき20歳やし、お前、密航で行き」^ゆ言って。

これ^ゆ言ったら、日本の警察も笑うけど。ちょうど行く人おったから一緒に連れて行ってくれと。「お前、親戚おるか」^ゆ言ったら、「おります」^ゆ言って。[日本に]来たら「誰が親戚や、どこに親戚おるんや」^ゆ言って。[実は親戚がないのに来たため]「僕、殺されますか」言うて。「若いから、自分で儲けて、連れてきた人に差し出します [支払います]」^ゆ言うて。若いから、その時分はどこでも使ってくれましたよ。あちこち、われわれの国の人^ゆが、今こそ厳しくなっているけどね、その時分、仕事なんぼでもあちこち行ってましたよ。「こち来て仕事し」^ゆ言って。

——日本に來られて、とくにお知り合いはおらなかつたんですか？

高：おれへん。あとで「お前、親戚どこにおるんや」^ゆ言って、誰も取りに [迎えに] ^け来えへん、僕が来ても。ほかの人はみんな連れに來たけど、僕ひとりだけ [誰も連れていく人がいないので]「どれや」^ゆ言って。

——日本に到着されて、どうされたんですか？ どこに行かれました？

高：対馬、対馬から下関。

鄭：その時、何日か対馬の山のなかにおったんや。

高：対馬に何日おったんかなー。忘れた。山のほうに隠れて。

——どれくらいかかります？ ^{ブサン}釜山で乗りますよね。

高：や、近いですわ。一晩もかかれへんかった。小っちゃい船に10人くらい……。「ええー、こんな早い」^ゆ言うて。

——^{ヨンド}影島から出発するんですか？

高：え、^{ヨンド}影島から。

——それは、船を運転している人は^{テジュサラム}済州の人ですか？

高：うんー、^{テジュサラム}済州の人かな、どんな人かな。分かりません、それは。

——どうして対馬から、どうして大阪に來られたんですか？

鄭：汽車に乗ってね。

高：それはあとのこと、対馬から下関から、連れて來た人を別々に車内に分けて、一遍 [一

緒] にしたら，ナニしたら [座ったら] 自分もコレなる [捕まる] から。捕まるから。はじめ大阪まで遠いなあー思って，朝鮮語で言ったら，日本語で「こいつ何話しているかな」言うて。あんまり，僕ひとりだけ。あとでみたら大阪，あ，これが大阪やな思って。

——下関から，どのくらいかかったんですか？

高：晩乗ってから朝8時9時10時かな，もうえらい [疲れた] な思って。

——それは，対馬から下関に上陸しますね。そこですぐ電車です？

高：すぐ電車でした。

——それは，誰かみんな一緒の行動ですか？ 二人組かなんかで？

高：乗った時分は別々に座って，自由に適当に分かれて。

——高さんはひとり？

高：二人おったんかな？ ひとりだったかな。

——電車乗るのをどうやって分かったんです？ その方法とか乗り方とか，どうやって分かったんです？

高：その人が全部……。

鄭：切符もその人が全部買^いうてくれた？

高：うん。

——船長さんがですか？

高：ま，船長さんかな。

鄭：ブローカー。

——日本語はちょっと分かりました？

高：全然。国民学校2年上がった時分やけど，中途半端な日本語と朝鮮語で言^いったって，^{チグム ムオル ハシムニカ}지금 뭘 하십니까[今何をするんですか]。入口で話してましたよ，日本人相手に。「この人何言^いっているのかな，分かりません」と，こうこう [身振りを] する。便所だけ入^いって。便所は [誰も] 来ないなって，ええとこやな思って。大阪まで下関から。

——大阪に着かれた時はおひとりだったんです？　そこで。

高：その人たち駅降りたから、ホームで会いましたよ、「集まりー」^ゆ言って。

《洋服屋に住み込みで働く》

——その人が生野まで連れて来て、生野に来て、まずどこに行かはるんですか？

高：あれね、今考えたら布施〔現・東大阪市〕かな、布施やな。

——布施のどこに行かはるんですか？

高：分かりません、それは。

——家とか？

高：家ですわ。ええ、その人の家でしたけどね。ほんで、みんな待ってましたよ、親戚なんか、迎えに。だから、僕だけや。だから、「この人は親戚おれへん、おまえ、日本行ったら、ちゃんと払う人おるからお願いします、言うて、日本行かさせた。ほんで、日本行ったら、何〔支払えないとはどういうことか〕？」。

——そこでずっと住まわれたんです？　お住まいはどうされました？

高：え、そこで三日間住んだかな。〔その後は〕自分知っているところ行って、ずっと働いて。〔着いた当初は〕「生野区や」^ゆ言って、電車で。初めてやから「外、出たらあかん」言うし。「登録もないし、何もないからあかん」^ゆ言って、監視みたいのしとったから。〔働くために〕「お願いします」^ゆ言ったら、洋服屋さんでした。同じ^{チエジユド}濟州島の人でした。

——何という店か、分かります？

高：その時分、店も分からない。ただ洋服して、4人くらい使とったんかな、ミシンで。

——それは同じように密航で来はった？

高：いやいや違いますよ。もともと、こっちに住んだ人。

——高さんだけが〔密航で来た〕？

高：うん、僕だけが。

——それ場所は、どのあたりか分かります？

高：生野区のチャイナタウン、いやいや韓国タウン、コリアタウン。ちょっと東ですわ。

——平野川の東？

高：そうそう、場所はね。

——お金はお父さんが払ってくれたんですか？

高：いえいえ、うちこのお父さんは払ってくれへんかった。お金ない^ゆって（笑い）。

——ほんで、どないしはったんですか？

高：あとでな、連絡あったらしいですわ、手紙で、その人と自分の親戚たちに。手紙見せながら、「お前のお父さん1円も払わんで、どないにするんや」言うから、「僕は無理だ。払えませんねん。殺されますか、どないにしますか」^ゆって。僕が韓国語で^ゆ言ったら、「しょうがないな」^ゆって「私、知っているところへ行って働させえ」^ゆって。それで1日160円。

——何の仕事？

高：洋服つくるところ。

鄭：日給が160円。

高：うん、日給が160円。

——その船長さんに払ったのは、いくら払ったんですか？

高：その時分10万円かね。その時分10万円ですまないって、8万円か10万円は払いましたよ。みんな合せて。

——その工場で、かなり働かなきゃいけなかったんですか？

高：そうです。あとでね、儲けてナニして。給料が安いから、ちょっと知っている人が「お前そんな安いところで働かせんと、僕の知っているところのプラチック〔プラスチック〕会社行ったらね、受け取りやから、シタ〔補助の仕事〕あるからしてみるか」^ゆって。そう言ったら、大分、1日ね、800円もらいましたよ。その時分は、52年前。来て2年間してね、ちょっと貯まりましたよ。それで〔密航費用を〕払いましたよ。その時分10万円は今100万円。その時分100万円払わなきゃ、連れて行ってくれへんかった。僕は運がええかな。とにかく来てましたけどね。

——2年間働いて、その人たちがどこにいるか、ずっと分かってはったんですか？

高：そうです。僕は隠してないからね。

——高さんは一生懸命働いて。連れて来てくれた人は生野の人ですか？

高：はい、生野の人です。

——生野に住んでいる人で、その人の家も分かって、その家にお金を持っていったんですか？

高：いえいえ、その人が直接来ましたよ。

——生野に來られて、同じ為美^{ウイミ}の知り合いの人とかに？

高：いや、僕は誰もおりませんでした。

——会わなかったんですか？ 全然？

高：初めは全然分からない。ほんでね、その時分、「あんた自転車乗るか」^ゆ言^ゆって、「乗り、できます」^ゆ言^ゆって、「ほんなら配達し」^ゆ言^ゆって。「よさん [ぎょうさん]、まとめ*14、ボタン、いろんなどこ、ミシン縫った後はいろんなボタン付けるし、いろんなどころ直すところあるから。1軒2軒教えたから」。その親父が教えてくれましたよ。それだけですわ。ミシン工おれへんかったら、「お前下張りでも一緒にしい」^ゆ言^ゆって、さしてくれまし。そこで1年間したんかな、1年してもなかなかこち [日本] 来るお金払うん、できへんからね。

ちょうど、その配達しとつたらね、僕の釜山^{フサン}の、お母さんの六寸 [母方の6親等=はとこ?] なのかな、国で1回見ましたよ。「あ、お前、どう、何した？ こっち来た？」^ゆ言^ゆって顔見たら、「あらら、おじさんどこ住んでます」^ゆ言^ゆって。急に [偶然] 遭いましたよ、それは。後で見たら、ごつい家住んどんねん。「ええ」言うて、「僕も住む」^ゆ言^ゆったら、「うちも子ども、大方8人おるから、あかんで」^ゆ言^ゆって。「お願いします」^ゆ言^ゆっても「あかん」^ゆ言^ゆって。「そこで寝泊まりしてますので」 [と言ったら]、「どこや」^ゆ言^ゆって、「ここからちょっと東ですわ」^ゆ言^ゆって。そこで入って話して。「登録もないし、何にもないから、遊びに行かんと真面目に働きだけし」^ゆ言^ゆうて。

ほんで夜中に配達。「あくる日に納める品やから、お前行って来い」言うから、いっぱい積んで、警察に止められて。「まとめですわ」^ゆ言^ゆって、それだけは覚えてる。警察に「間違いいな」^ゆ言^ゆって、「はい」と返事しました、それだけは覚えています。あー、

どないしょ。僕、社長に言^ゆったらね、「ほんまやな、それは考えするわ」言^ゆって。それから自分が配達^ゆの番、あくる日納めるやつでも、自分で、社長がまとめの家へ配達^ゆしてくれましたよ。

—洋服屋さんに住み込みで働いたんですか？

高：え、ミシンがあるところに畳あったからね。部屋ひとつ、くれたから住んでました。腹いっぱい食べさせてくれたし、ええようにしてくれましたよ。給料だけ160円やからね。다음에 [次に]、知っている人がまた道で遭^ゆって。うちところで一晩寝^ゆてて、こち [こちらへ] 来た人や。「あら、お前、どなに^ゆした [どうした] ?」言^ゆって。その時分、こち [こちら] で捕^ゆまる人、大勢お^ゆったから、「ま、よ^ゆかったな」言^ゆって。「こんなところで、なんぼ^ゆもらっているの」言うから、「安^ゆいです。腹いっぱいご飯食^ゆべさせてくれるから」。ほんでもな、その人も儲^ゆけて [密航費用を] 払^ゆったらしいね。こんなこんな、もらっている言^ゆったら、「それちよ^ゆっと安^ゆいわ」言^ゆって、「僕が知^ゆっているところ、プラチックのところで働^ゆきするか」言^ゆって。その時分はベークライト*15、その時分、ベークライト言^ゆってました。「アメリカ輸出^ゆするからものすごい忙^ゆしい」言^ゆって、行^ゆったら800円以上ありましたよ。

下宿はわれわれの国のおばあさんところでした。そこで寝泊^ゆまりしてご飯食^ゆべさせてくれました。3年間^ゆでしたかな、や^ゆと^ゆたら金貯^ゆまって、「払^ゆいます」言^ゆって [密航費用を] 払^ゆいましたよ。その時分9万円か10万円はありましたよ。領収書はもら^ゆっていない (笑い)。

その後、何とか儲^ゆけて儲^ゆけて。知っている人紹介^ゆして、「お願^ゆいします」言^ゆって、自分の口から [結婚相手の紹介を依頼^ゆした]。知^ゆってる人が、その、道で遭^ゆうたおじさんがな、「同じ、あんたら^ゆの村の人が神戸に住^ゆんでいるから、そこに行^ゆって頼^ゆんでみ」言^ゆって。「登録^ゆのことは、言^ゆわ^ゆんほう^ゆがええで」言^ゆってました。で、行^ゆきました。行^ゆったら、「あ、お前^ゆが誰 [誰それ] の息子か？ あなた、長男違^ゆうの？」言うから、「本家やろう？」言うから、「そう^ゆです」言^ゆって。「いやもう、日本にせ^ゆっかく来^ゆて、日本に住^ゆみたい^ゆですわ」言^ゆったら、「ああ、そう^ゆか」言^ゆって。「嫁^ゆさんちよ^ゆっとお願^ゆいします」言^ゆったら、「そんな急^ゆに^ゆ来^ゆて、そんな言^ゆったらあ^ゆか^ゆんで」言^ゆって (笑い)。言^ゆったけど、ほんで2回目^ゆに^ゆ来^ゆたら、「家^ゆ、来^ゆてや」言^ゆって、こ^ゆち [妻^ゆを指^ゆして] 見^ゆ合^ゆいして、ほんで結婚^ゆしました。

鄭：[昭和] 31年 [1956年]。

高：僕、31年来^ゆたから32年^ゆかな。

鄭：ちょうど9月1日に来たらしいですね。だから、この間、50年や、52年や言うたんか？
上陸したのが。

高：大阪来たのが、ランドセル [を背負う時期] で、新学期で、韓国と一緒にすな。大阪
駅降りて、それが9月1日やった。「ああ、韓国と一緒にすな」言うた。それ、覚えてます。

結婚後、神戸へ

《密告》

——お母さんと結婚したら、登録はすぐに？

高：できない。

鄭：私もそれこそ数えじゃ20か21くらいやからね。ちょっとお見合いの時に、うちの母
親もそうやからね、なまりあるな思ったんやけど、そういうこと何も分からんと結婚し
たんですね。ま、それまで何も知らんこともないけどね。その前後にちょっと分かった
んですけど、いまさらね（笑い）。三男が生まれてから、誰か言ったのか、近所の人が
誰か密告したのか知らないんだけど、この人が朝、仕事行こうと思った時に4、5人の
刑事に囲まれて。それからこの人がしゃべることやけど。

高：朝行ったら、家から、ちょっとこう、あれ、何神社や？ 神社の横で3人くらいじっ
と立ってて、私服みたいに、労働服みたいな着て立っている。すっと思ってたら、「ちょっ
とちょっと」言^ゆって。「なんですか？」言^ゆって。「われわれ警察です」言^ゆって。「なんですか？
警察、なんですか？」言^ゆって。「外国人登録カード持ってますか？」言^ゆって。「持ってま
せん」言^ゆって。あっさり言いました。言^ゆったら、「警察行きますか」言^ゆって。「自転車を
うちとこに [自宅に置きたい]」言^ゆったら、自動車の中から5人かな、ばーと出て囲ま
れ……。後で言いましたよ、僕はこんな、こんなやから [こんな事情で] 住んでます、
言^ゆって。

文化住宅、住んだ時分は、何も言うてなかったのに [誰も密告しなかったのに]。町、
今住んでるところは、ちょっとええところやから知らんけど、誰が密告したか知らん
けど、ま、その人のおかげでパスポートも登録もできているけどね。

[警察は] 1日 [目] は話聞いてくれません。「お前何しに来たんや？」。ただ殴られ
るだけ、言葉は汚かった。「ま、お願いします」と「子ども3人おる」と。「誰が子ど
もつくれ言うた」「夫婦やから、子どもできるの当たり前ですやろ」言うてね。1日目
はぜんぜん話聞いてくれませんでした。

ほんで後から何言うか言うたら、「あなた、国では何やの？」^ゆ言って、「長男か何やの？」^ゆって聞くわけ。「長男やし、本家やし」^ゆ言ったら、「長男はよその国に行け、言えへんねんで」^ゆって言うねんよ。「おれとこのお父さんは、昔、軍隊で物資積んで、大連行ったことありますよ」^ゆ言って。朝鮮語で言ってもみんな分かりましたよ。ほんま、嘘つきできへん。

ほんで、「いつ来た？」。こんなこなして、「昭和31年来て」。「ほんまか」^ゆ言って、「お前、軍隊は？」。軍隊は、その時分18から召集のナニ〔徴兵検査〕するからね。「ああ、受けました」と。「何もらった？」^ゆ「甲種*16 もらいましたよ」^ゆ言ったら、「ほんまか。何でこっちに逃げてきた」言うから、「いや、軍隊行かない」「お前、軍隊行かないって何や」言うて。それはもう謝って、自分がよその国に住んでいるから謝ってね。僕の親父が、「行ったら日本人は礼儀正しく他人にするから、絶対ナニ〔反抗？〕したらあかんで」^ゆ言って教えてくれたからね、それもね。「ま、お願いします」^ゆ言って。何言うても日本は日本、韓国は韓国、朝鮮は朝鮮やから、そこで住むんだったら、頭下げや、^ゆ言ってくれたから、ものすごい謝って。

あとは調書を書きながら「あなたみたいな人がいたら、われわれは楽やわ」^ゆ言って。なんやかんや^ゆ言って、「あんたの国の人は大勢いる。行ってみたら登録もないし。家、行っても何もなくて。自分の国違う^ゆ言うて、あなたは正しく^ゆ言っているから嬉しいわ」^ゆ言って。

ほんで大阪どこどこまわして〔訪ねてまわって〕。僕の道で^お遭うたおじさんが来てくれて「これは間違いないですわ」^ゆ言って、「おたくが証明してくれますか」^ゆ言って。僕は簡単にできましたよ、1日行って〔裁判は〕終わりましたよ、僕は。ほかの人は、登録違反で、日本の嫁さんもらった人がね、同じ拘置所おったよ。その人、2回ほど裁判かけて、やっと〔釈放された〕。嫁さんが日本人やから。

僕は1日でも働きせんかったら子ども3人おるし、ナニした〔経済的に苦しい〕から「裁判長お願いします」と、いや、そんな立場^ゆ言うて。それだけですわ。裁判長〔が〕「昼から」^ゆ言うから、「また昼来てくれる？」^ゆ言って、11時30分前かな、終わって。行ったら書記長だけ来てましたよ。ほんで、書記長が立ってね、「おたく、執行猶予3年、懲役2年」。「懲役ついてるから、あかんのかな」^ゆ思って。裁判終わったら、それから自由に。

そんなんして、われわれの国の民団〔在日本大韓民国居留民団（当時）〕に行ったら、団長に聞いたら、「懲役刑ね、執行猶予言うたら、3年間何も悪いことしたらあかんで」^ゆ言って。「登録はもうじき出るから」^ゆ言って、区役所行って。区役所行ったな。ナニ〔外国人登録〕したけど、嫁さんに迷惑かけましたよ。「何もね、人間、自分が悪いことし

てなかってもね、人間が一番嘘ばかり言う^ゆとる」と。「どこの国の人でも」、警察がそんなこと言うからね、「ああ、そうですか」言うて。「登録できるかどうか、分からんで」言いましたよ、あの、刑事がね、「口ひとつやし、真面目にちゃんと生きてや」、そんな言^ゆってました。

——軍隊から召集令状は来たけど、行かないで日本に来られたんですか？

高：ああ、あの、甲〔甲種合格〕はもらいました。甲はその時分ね、韓国の38度線が危ない言^ゆったら、ぱっと、すぐ行くみたいね。僕のおじさんが行ってましたよ。

——甲種をもらってたけど、行かなかった？

高：もし38度線が危ない言^ゆったら、甲をもらった人は、ぱっと行くらしいですわ。

——その時何歳ですか？

高：その時分、数えて19ですわ。あ、満で18やな。釜山^{フサン}におりました。僕まで甲くれるか思わなかったけど、勉強は甲ひとつ、もらってないのに、これは甲もらったな思っ

——結婚されて神戸に移られたということ？

高：はい、そうです。

鄭：はじめは1年ほど、長男が生まれた時は大阪にいた。1年ほどは大阪に住んで、だから長男は大阪生まれでね。

——結婚された時は大阪でベークライトの仕事を？

鄭：そうです。大阪でプラチックの仕事を。

——高さんが警察に連れて行かれた時、当時長田でもたくさん密航で来た人が捕まって？

鄭：私らがそのまま大阪に住んでたら、たくさんおったんです。神戸は割と少ないです。だから大阪の生野に住んでたら、もうとっくにね、誰かに言われて〔密告されて〕、そうなったかもしれん。神戸はそういうのが全然ないでしょう。私らの周りにも韓国^{ハングッ}人^{サラム}全然ないしね。だから、この人がなまりあったから言うて、誰も言う人はいなかったです

今の家に引っ越しできたら、近所にちょっと韓国^{ハングッ}人^{サラム}、おばちゃんがおって、そうなんやっ

ったん違うかな。だけど、その人が言^ゆったかどうかは、全然分かりません。証拠も何

もないからね。文化住宅言うて、狭いところ住んだ時は、その子〔次男〕もそこで生まれたけど、全くそんなことなかったんだけど。ちょっとこっちの古い長屋に替わってきたら、やはりちょっと怪しい思ったんかね。毎朝その会社、行きよんのに、その日そうなのは、朝たまたまそうやったというのは、警察が尾行せんことには向こうも動けへんわね。

——警察では、なんかいろいろと言われ、なんで来たのかとか？

高：それはさっきから言いましたけど、何しに来た、誰がなんで、どこで、それはもう始めからずっと言いました。言ったら、そうか、言^ゆって。初日はもう聞いてくれませんでした。もう、怒るばかり、「何しに来た？ 何で嫁さんもらった？」。こればかり。そのあくる日から、警察はブタ箱入って、出しながら、今日はこうしながら「ゆっくり僕と調書を書こう」。外国人のばかりやるから、朝鮮語で。朝鮮語も上手。よく知ってましたよ、朝鮮語の言葉も。朝鮮語で書いて1日以上かかったかな、そこで1週間くらいはいたんかね？ 入管に1週間。

鄭：入管はなかったん違う？

高：なかったかな。拘置所。

鄭：まとめて、ひと月くらい。

《拘置所、入管、外国人登録》

——警察に1週間、いはって？

鄭：拘置所が長かったん違う？

高：拘置所が長かったか、入管が長かったか、忘れた。

鄭：長田警察から入管。

——入管でも何日か？

高：そこも大方1週間違うかな。

——どこです？ あ、神戸の？

鄭：神戸の下山手〔神戸市中央区下山手通〕にあった。

——その時、奥さんとの面会とかは？

鄭：それは裁判を頼みに行ったりとかして。拘置所は、おったのは下の子が誕生日やったのかで1回行って。入管も行ったのかな？ 会わせてくれんへんかったか、何か。

高：拘置所は1回来てくれ、^ゆ言って。僕がハガキ出しましたよ。あなたはこんなしたらええ、^ゆ言って。あの、拘置所で。一緒に入った人おったから、「嫁さん呼んで、早くこんな拘置所出え」言うから、呼んだら、「ちょっと無理や」^ゆ言って。「どうせ入管行くから」言うて。拘置所の中のえらいさんが来てね。ほんで入管に行きましたよ。

入管で1週間くらいいたんかな。入管も警察と同じやね。「われわれは裁判にかけなかったら、裁判長がどんな言うかな」^ゆ言って。「それは、私はよう言わん」^ゆ言って。「これ以上は所長が言う通りだけ言うてや」^ゆ言って。始めから、^{チエジュ}濟州から^{ブサン}釜山から^{かげしま}影島から、また対馬から下関から大阪から今住んでいるところから、これくらい調書を書きました。

——罰金って、なんぼくらいあったんですか？

鄭：あの時で15万くらいでしたですね。ほかの同じの人と比べたら出るのも早かったし、ほかに悪いことしてないし、登録〔外国人登録法〕違反だけだからね。

——私も叔父さんが密航で日本に^{チエジュ}濟州から来て、大阪で捕まったんですけども、大阪の入管がいっぱいやから^ゆ言って、神戸の入管に行って。その時に家のお母さん^{うち}も呼ばれて調書を取られたんですけど、その時お母さん^{オモニ}はちょっと日本語できないから一緒について来たんですけども、その時は入管のほうで「あなたが呼んだん違う？」と、^{うち}家のお母さん^{オモニ}が呼んだんみたいなことされたりしたんですけど、^{うち}うちのお母さん^{オモニ}は日本語分からないから何でも「そうです、はい、そうです」^ゆ言って。「えー、そんなことないやろう、呼んだん^{ちや}違うか、^ゆ言ってはるで」^ゆ言ったら、「そんなことないで」というふうな聞き方とか、いろいろあったんですけども。たとえば、そういうふうな聞かれ方とか、誰かが呼んだん^{ちや}違うか、とか？

高：親戚がおりましたよ。親戚がおって、こんな大阪行ったら、おるから連れて行ってくれ、言いましたよ。誰や親戚、なんぼ探してもおらへんや……。お父さん、ええ加減に書いてやってみたいですわ。

——そういう話をしはった？ 入管で？

高：もう同じですわ、警察と。

——入管では、ほかのことは聞きはらなかつたんですか？

高：入管では、それ以上のことは聞けへんかったですわ。警察で言う通り、「その年、あんた来た時分、誰の歌覚えているか」[と]聞いて、「フランク永井さんやったかな。その時分なんやったのかな」。こんな^ゆ言ったら、「そんな、その後や」^ゆ言って。「僕はそれをラジオで聞きながら仕事したことがあります」^ゆ言って。「そうか」^ゆ言って、それだけですわ。警察で書いたとおり。それは再検査やからね、それだけでした。そうやから、これという質問もしてなかったし。

——たとえば総連の人と関係があるのかとか？

高：それは聞きましたよ。あんた、裏日本何しに来た、なんですか^ゆ言って。

——裏日本？

鄭：その時分、裏日本^ゆ言って、日本海 [側]。

高：裏日本、何しにきた^ゆ言って。

鄭：ここ最近まで、裏日本^ゆ言ったん違う、天気予報でも。

高：「なんの意味ですか」^ゆ言って。「あなたちょっとサバサバして、金も儲け、しているん違う？」言うて。「いろんな相手が来て、こんなこんなしてお金を渡すからナニ [密輸?] しゃ、言うたん違うか?」。警察がそれ言うから、えー、思っ。私、そんなしたことないのに、証明ないのに、どないして。「それ言った [と] いう噂がある」^ゆ言って。

鄭：もう、ないこと言う。

高：ないこと言うから。登録違反だけですわ。「おたくの国来て、黙って住んだことは悪いけど、それは絶対ないです」^ゆ言って。「間違いないか?」言うから、「間違いないです」^ゆ言って。それ、書いてないかな、書類に。そんで入管行ったら、その書類さっさささ見て、そんで「その時分、何の歌が流行ったか?」。それだけ聞きましたよ。入管であんな聞くの、思わなかったですわ。拘置所は何も言えへんかったですわ。

——大村収容所に行かないで済んだんですね。入管だけで釈放されたんですね。

高：ええ、そうです。

——神戸の入管で、その当時どれくらい？

高：もうひとりおったけどね。その人は僕みたいに登録ない人や。日本の嫁さんでした。

——それ以外に登録違反の人は、ほかにいなかったですか？

高：ええ、いなかったです。僕とあの人、二人だけ。

——そのころ、お仕事は何をされていたんです？ 神戸に移られてから。

高：宮本塗装、僕の親父の友達ですわ。オカダさんという人とも親戚で、^{ウイミリ}為美里の人。その宮本さんが紹介して。

——^{ウイミリ}為美里の親睦会は？

高：登録できてから、ようさん [ぎょうさん] あったけど、今はえらいさんたちが金がない。はじめは一生懸命してたけどね、今は何もないですわ。連絡もないしね。

——登録つくる前は、親睦会に顔を出してなかったんですか？ 結婚する前とかは、全然？

高：それはなかったんですね。

——仕事と寝るところだけ。

高：ええ、登録できてから、社長の息子も顔は知っているから一緒に親睦会入り、^ゆ言っ
ね。このごろ会長やけど何も連絡もないから。こっち住んでるけどね。

——その後、^{チェジュド}濟州島に初めて帰られたのはいつになります？

高：あれは37歳かな、入管に1年1年切り替えに行ったらね、お願いします、^ゆ言ったら、
女の事務する人が、「国、パスポート出して [もらって] 行ったらどう」言うから、「僕
みたいの行けます？」^ゆ言ったら、「これ、十分行けます」言うから。それから行きました。

——それは、入管の職員が勧めてくれました？

高：ええ。勧めてくれてね。「行ったらどう？」言うてくれてね。「あ、嬉しいですわ」^ゆ言っ
て、何十年ぶりに行ってみるか思って、「あんた、行ってきたらどう？」 [と妻が] ^ゆ言うから、
「行ってくるわ」^ゆ言っ

——そのころは、もうお父さん亡くなられて……。^{オモニ}お母さんは？

高：亡くなりましたよ。僕が [日本へ] 来て2年目かね。

——それはどうやって聞いたんです？ ^{オモニ}お母さんが亡くならはったのは？

高：手紙が来てましたよ。僕が住んでいるとこに^{チヤグンアボジ}叔父が手紙……。

鄭：手紙のやり取りはしてましたから。私と叔父さんと。

高：僕の戸籍謄本つくって送ってくれ、^ゆ言^ゆって。ちゃんと送ってくれましたよ。その叔父さんがね。

鄭：パスポートつくるのに戸籍謄本要るからね。

高：その前から警察行って。戸籍謄本、警察もそれ信用せえへんねん、ほんまか嘘か。「あんたの国の人は嘘ばかり言うからな」^ゆ言^ゆうて。それででした。それから見せてやったからね。先もってね。オカダさんという人が「戸籍謄本も、おまえ、叔父さん、おるやろ」^ゆ言^ゆうて。「それ、あんた、戸籍あるはずや」^ゆ言^ゆうから。「あるですわ」^ゆ言^ゆうたら、「送ってくれ^ゆ言^ゆうて、置いとけ」^ゆ言^ゆうて。「何かある場合には、それ必要やから」^ゆ言^ゆって。その叔父さんがいろんな面で教えてくれました。晩、^{おそ}遅^ゆうまで絶対、日本人見たらな、顔見てな、誰を見ても、朝起きたら、おはようございます、こんにちは、^ゆ言^ゆって。1日座ってね、そんな教えてくれましたよ。日本はこんなこんなや^ゆ言^ゆって、教えてくれたからね。

——^{チエジュ}済州に帰られて、どうでした？

高：ものすごい感激してくれましたよ、「おまえ、登録もない、ようつくってきたな」^ゆ言^ゆって。3人かな、2人かな。その時、日本、来てもね、登録ないで違反でね、捕まっていた人がね。僕は「嫁さんのおかげでこんなできたよ」^ゆ言^ゆったら、「そうやな口もひとつやけど、嫁さん大分協力したん違う」^ゆ言^ゆうから、「そうやで」^ゆ言^ゆって。伯母さんも叔父さんも、ものすご、感激して、「登録つくって、言葉も分からんくせに、日本行って、よその国に行って、よう住んでいるな」^ゆ言^ゆってくれましたよ。

——^{フサン}釜山出てから20年以上？

高：18年ぶりかな。17年、18年ぶり違うかな、^{フサン}釜山から出て。

《釜山の母を呼ぶ》

鄭：だから、^{フサン}釜山のお母さんのこと^{オモニ}言^ゆってないから。

高：登録ができたから、2番目のお母さん、自分はおおかた4年間以上一緒に住んだからね、いろんな感情はありますよ。自分が産んでないでもね、嫁さんが保証人で。僕は登録あっても保証人できないから。僕が呼んだ。ほんで、ものすごい喜んでくれてね、「自分が産んでないけど、4年間住んだけど、こんな呼んでくれて、ありがとう」^ゆ言^ゆうて。そのお母さんも、大阪に住んだことがあります。2番目のお母さんやけどね。その2番目のお

母さんが、オカダさんとユクチョン六寸ですわ。

——あ、チェジュ濟州の人なんや。

高：だから、その人が生きて会うか [オカダさんは母に生きて会えるとは] 思わなかったですわ。「おまえ、よく来たもんやな。ほかの人はそっちで引っかかって」ゆ言って、ものすごい感激してくれましたよ。[かつては私に]「配達もするし、なんでもしや」ゆ言って。「どこ行っても生意気せんとな」ゆ言って。「何しても頭下げ」ゆ言って。

——二人目のお母さんのユクチョン六寸だったんですね。

高：ええ、オカダの [おじさんは]。

——チンオンマ친엄마 [実母] じゃなくて？

高：チン친 [実の] お母さんは、こっちに親戚、誰もおりません。そうやから、そのユクチョン六寸のいとこたちは、よさん [ぎょうさん] おりますわ、あとで見たら。お母さん言うたらな、こんなこんなところへ行きたいわ、ゆ言って連れて行って。「おまえ、よく呼んであげたな」ゆ言って、ものすごい感激してくれてね。「今は産んでないお母さんでも、そんなしてくれへんで」ゆ言って。その、年上ですわ、僕のお母さんより。その時分、何年前や、30何年ぶりや。今はほとんど亡くなりましたけどね。「普通やったら、そんなしてくれへんで」ゆ言って。「ほかの息子でも」ゆ言うて。まあ、いろいろありましたよ、そのお母さんと一緒に住んで。自分の産んでない子やからね。

——やっぱり日本に来はるようになったのは、お父さんの話にもあったけど、チェジュ濟州では住んでいくのがしんどい、言うか……？

高：しんどいでした。同じ、しんどいでした。自分の故郷でも、畑でもよさん [ぎょうさん] あったらいいけどね、ないしね。いとこたちも今、立派な家建てて、みんな住んでいるから、うわあ思ったけどね。去年行ってみたら。その前から住んでいるけど、ええやん思っ。

その時分は何にも。ただ力で農業したって何したって。今は、日本のまねして、フサン釜山来て嬉しくて。お父さん、こんなところで住んでいるか思っ、フサン釜山、都会見たらね、その時分でも停電は、フサン釜山、ありましたけど。日本来たら水道開けたらジャー、ワーツと。日本来て共同便所がありましたけど、共同水道あるしね、長屋はね。共同水道でも、開けたら水がザーザー出るからね。フサン釜山は、昼はみんな軍事工場移動するから電気くれ

ません。民間の工場は、ほんまに晩しかできへんかった、その時分。僕も4年間、女の頭のピンする工場、働きしたことあるけどね。

——最後に、高さんが小さい時から釜山プサンを出られるまで、済州チュジュにいはったじゃないですか。4・3事件というのは、後であれが4・3事件だったというのを知らはったと思うんですけど。やっぱりあの事件に対して思うことってありますか？

高：ありますけどね。北の保安かね〔遊撃隊のことか？〕、あの人たちが来て、ああいう、何がしたかは、こっちは分かりません。僕の推理だから。その時分、九つだから、10歳くらいから村に来てね。ぼつぼつものすごい、罪もない人も刺し殺すしね。交番〔の〕中入って巡査なんかみんな殺されるし、堂々と。あとは軍隊が入って来てね、守ってくれたけどね。

僕もはっきり分かんけどね。北の工作員か、南のか分かりませんが、済州島チュジュドの出身が日本来たら、なんやかんや言うてね。陸地の人も言いってたけどね、アカやアカや、どっちや。僕もはっきり分かりません、どっちがどっちか。

晩、夜中寝とったら、僕、お祖母ちゃんと一緒に寝てる時分、来てね。「こっち名前と住所書いてくれ」言いって、したけどね。お祖母ちゃんなんか字知らんから「お前書け」言いって、僕もその時分、全員の名前だけ書いてね。ほかの人が来て、私を書くから「名前言いってちょうだい」言いって書きましたよ。それ、みんな自分たち持っていったらしい。後でちょっと大騒ぎになったら、それが政府にばれて、そんなことありましたけど。「これから注意します」言いって。「始末書かけ」言いって。これから注意せんかったらいけませんわ。おたくたちもね、僕もね。

そういう点、日本は平和な国で何十年来てるからね。これぐらいね、ずっと来てほしいですわ。そやから、日本は手上げて〔降伏して〕よかった。われわれ、韓国と一緒に、朝鮮と一緒に植民地になったらね、われわれ息子たちがどこ行くか分からない、軍隊で。そう違う？ 植民地やから。僕は日本語喋れへんかった。小学校1年時分ですよ。「高島大成」いうて、校長が「お前、自分の日本の名前、言え」言いって、ぴちゃーっと殴った時があった。

子どもにも一切言いったことないですよ。済州島チュジュド、こんなこんな事件、こんな目の前で殺された。兄弟きりでも、お前アカや、お前シロや、言いって殺された。自分の親と子どももなった場合があるから。

日本人は「何で〔国が〕二つに分かれた」言うから。はじめね、日本は3・1運動ありますやん。その時分早く手を出したら〔朝鮮が独立していたら〕、資本主義になるか

民主主義になるか、社会主義になるか共産圏になるか [分断はされなかった]。あとは手を上げている [日本が降伏した] から、北はソビエト・中国、南は発展したアメリカが占領して、そうやから二つに分かれて。日本人のせいで朝鮮は二つになった^ゆ言ったら怒ってましたけどね。植民地なってその前から独立さしてしまったら一つ [の国家として] 共産圏になるか、ナニしたけど、日本の政府があかん言うから。

僕が歴史で読んでみたらね、そんな教えてくれたけどね、先生がなんやかんや^ゆ言っても、日本は東洋では日本やし、西洋ではイギリスや^ゆ言っただけね、みんながこれがええ^ゆ言っただけね、教えてくれましたよ、いろんな面で。

——ありがとうございました。

【用語解説】

*13 ^{ソサンテサン}小祥大祥 (再掲)

かつての済州島では、一周忌を「小祥」、三回忌を「大祥」とよび、葬儀と同様弔問客が訪れ大々的に祭祀をおこなっていた。

*14 まとめ (再掲)

洋服の縫製過程のうち、袖付け、ボタン留めなど、仕上げの段階での手作業のことをさす。内職でもでき、歩合制であったため家の中での作業が可能で、朝鮮語も日本語も充分に学ぶ機会のなかった在日朝鮮人女性にとって、貴重な収入源のひとつであった。

*15 ベークライト

フェノール樹脂のことで、最も古い人工的に作られたプラスチック素材。成形品、接着剤、結合剤としてさまざまな工業関連部品に使用されたほか、ボタンや食器、電気プラグなどの日用品にも広く応用された。日本の高度経済成長期以降、在日朝鮮人社会ではベークライトを素材にしたプラスチック加工業に参入する者も多かった。

*16 甲種合格

旧日本帝国陸軍式軍隊文化の影響を強く受けたまま創建された韓国軍では、義務としての兵役検査を受ける者は旧日本軍同様、甲種・乙種・丙種・丁種・戊種に区分された。区分の基準は身体能力と学歴で、詳細な基準は頻繁に改変されたが、甲種などの名称は

1984年に1級から7級に再編されるまで用いられた。甲種判定を受けると現役兵として徴兵の対象になった。